

海外安全対策情報 令和2年度第2四半期（7月～9月）

1 社会・治安情勢

コナクリ市を含むギニア全体で電気・水などの生活インフラは極めて脆弱であり、コナクリ市内及び郊外で停電、断水に抗議する道路封鎖や投石等による物損被害が頻繁に発生しています。その他、政府に対する抗議活動が頻繁に行われています。

ギニアでは、本2020年10月に大統領選挙実施を控え、アルファ・コンデ大統領が大統領の任期を含む憲法改正に意欲を示したことにより、市民社会連合、野党勢力が反対し、昨年10月からデモによる抗議を実施しています。3月22日に実施された国民議会選挙と新憲法制定に関する国民投票ではデモ隊と治安当局が衝突し、多くの死傷者が発生しましたが、治安情勢は長期にわたり現状のような不安定な状況が継続する可能性もあります。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

7月には首都コナクリ、8月にはキンディア県、9月にはマムー県にて強盗事案が発生しています。また、幹線道路沿いでは、長距離タクシーや乗用車を狙った武装強盗による被害も治安当局により確認されています。

(1) 一般犯罪・凶悪犯罪事案（主な事件）

(ア) 首都コナクリ

7月、ラトマ区で強盗事件が発生し、現金及び携帯電話が盗まれました。

(イ) キンディア県

8月、武装強盗事件が発生。現金が持ち去られました。

(ウ) マムー県

9月、タクシーを狙った武装強盗事件が発生し、現金が持ち去られました。

(2) 邦人被害事案

9月、邦人事務所に侵入し、多額の現金が盗まれました。

(3) 在留外国人（邦人以外）の被害事案

在留外国人の被害事案は確認されていません。

3 テロ・爆弾事件発生状況

ギニア国内ではテロ・爆弾事件は発生していませんが、治安当局は昨今の西アフリカ諸国におけるテロ発生を受けて、主要なホテルや公共施設に治安部隊を配置し警戒に当たっています。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

在留邦人、在留外国人の被害事案は確認されていません。

5 対日感情

ギニア国民の対日感情は概ね良好です。

6 日本企業の安全に関わる諸問題

ギニア国民の対日感情は概ね良好であることから、日本企業であることを理由に犯罪の標的になる可能性は低いと思われます。

以上